

福島県相馬郡小高町飯崎方言の副助詞

小林 初夫

I. はじめに

1. 調査対象地： 福島県相馬郡小高町は阿武隈山地と太平洋によって地形的、地理的に構成されている「浜通り地方」のほぼ中部に位置しており、南方のいわき市と北方の宮城県仙台市のほぼ中間にある。飯崎は小高町中心部より西に位置する戸数187戸、人口約730人の農業地域である。
2. 調査年月日： 2000年10月7日 午後1時30分～3時30分
3. 話者： 小林和子 1940（昭和15）年1月23日生（60歳）
4. 調査方法： 統一調査票による質問調査
5. その他： 回答文の話者の説明は（ ）に記した。

II. 調査結果

(1) 添加・例示・提題などをあらわすもの

A 添加 <さえ・も>

1. 雨だけでなく、風さえ吹いてきた。 アメバツカリデネーグ カゼモ
ファイデキタ。
2. 今年は豊作で、米ばかりか麦もよくとれた。 コドシワ ホーサグデ
コメバツカリデナグ ムギモ イイグトツチャ。（「たくさんとれた」
は「タントトツチャ」と言う）

B 予想外の事実 <さえ・だけ>

3. 小学生でさえ簡単にワープロを使っている。 ショーガクセー デモ
カンタンニ ワープロ ツカッテル。（「デモ」は「ダッテモ」とも言
う）
4. 宝くじが当たると思っていなかっただけに嬉しい。 タガラクジ アダ
ルナンテ オモッテイネガッタガラ ウレシー。

C 条件 <さえ>

5. 暇さえあれば釣りに行っている。 ヒマセエ アレバ ツリサ イッ
テル。

D 例示 <でも・ほど・まで・など・やら・なり・なんて>

6. まあお茶でも飲んでください。 マア オジャデモ ノンデオゴレ。
（「ノンデオゴレ」は「アガッセ」とも言う）
7. みやげにはこのまんじゅうなどどうかな。 オミヤゲニ コノマンジ

ユウナンテ イイデネエベガ。(「イイデネエベガ」は「ドウダベ」とも言う)

8. 思わず跳び上がるほど嬉しかった。 オモワズ トンビヤガルホド ウレシガッタ。

9. まさかあなたにまで話が行くとは思わなかった。 マサガ オメントゴマデ ハナシ ングド オマーネガッタ。

10. なぐるやら蹴るやらの乱暴をはたらいた。 プンナグツタリ ケットバシタリノ ランボーシタ。

11. 私になり相談してくれれば良かったのに。 オレニ ソーダン シテクイレバ イーガッタノニ。

12. 野菜なんていくらでもできる。 ヤセーナンカ ナンボデモ デギル。
一対の語の例示 <だって>

13. しょうゆだってみそだって作っていたんだ。 ショーユダッテ ミソダッテ ツグッテダンダ。

択一 <なり>

14. 私なり弟なりがお手伝いに行きます。 オレガ シャデナリ テツダイサ ングマス。(女性でも「オレ」を使う)

例外でない <とて>

15. 村長とて、そうするより仕方なかったんだらう。 ソンチョーデモ ホーシルシカ ネガッタダベ。

列挙 <も>

16. 春らしくなって、桜も梅も一度に咲いた。 ハルラシグナッテ ンメモ サグラモ イチドニ サイダ。

同類の暗示 <も>

17. テレビもそろそろ買い替えよう。 テレビモ ソロソロ アダラシグシッペ。

やわらげ <でも>

18. まあお茶でも飲んでください。 マー オジャデモ ノンデオゴレ。

E 包括 <など>

19. 盆には子や孫などが帰ってくる。 オボンニワ コドモダノ マゴダノガ ケーツケル。(「ダノ」を「ダリ」とも言う)

F 提題 <だって>

20. ゲートボールだってできるよ。 ゲートボールダッテ デギッペ。
話題にあげる <って>

21. 何だい、いいことって。 ナンダベ イイゴドッチャ。
極端なものの提示 <でも・くらい・すら・も>

22. そんなこと子供にでもできるよ。 ホンナゴド コドモダッテ デギッペ。

23. 食べることくらいは何とかしたい。 クウゴドグレワ ナントガシテ
エ。

24. 名前すらろくに覚えていない。 ナメーサーガ ログニ オボエデネ
エ。

25. 弁当代に千円もかかった。 ベントデーサ センエンモ カガッタ。
軽いものをあげる <さえ>

26. これさえあればもう大丈夫だ。 コレサー アレバ ダイジョブダ。
(2) 分量・程度・基準などをあらわすもの

G 分量・程度 <ほど・くらい・ばかり>

27. 旅行で三日ほど家をあけた。 リョゴーデ ミッカバガシ イエー ア
ゲダ。

28. 茶碗に半分くらいください。 チャワンサ ハンブングレー クイロ。

29. 子供にでもわかるくらいのやさしい本だ。 コドモサデモ ワガルグ
レーナ カンタンナホンダ。

30. 一週間ばかり留守にするので頼むよ。 イッシューカンバッカシ カ
ラニシッカラ タノムド。

H 基準 <ほど>

31. 今年の寒さは去年ほどではない。 コドシノサムサワ キョネンホド
デワネエ。

I 理由 <ばかり>

32. ちょっと油断したばかりにとんでもないことになった。 チント キ
ーユルシタツケニ トンデモネーゴドニ ナッチマッタ。

J 「それにふさわしく」 <だけ>

33. 苦労しただけあって人間ができています。 クローシタダゲアッテ ニ
ンゲンガ デギデル。

形式名詞的用法 <なんか>

34. 毎日孫の守やなんかで忙しい。 マイニチ オドノモリヤ ナニガデ
イソガシ。

「それこそ」 <こそ>

35. それこそバケツをひっくりかえしたような大雨だ。 ホレゴソ バゲ
ツシックルゲーシタヨーナ オオアメダ。

「～ばかりか」 <ばかり>

36. 父ばかりか母もスポーツ好きだ。 トーチャンバッカリデネーグ カ
ーチャンモ スポーツズギダ。(「スポーツ」という言葉はほとんど使わない「ウ
ンドウ」と言う)

K 今にも行われる <ばかり>

37. もう食べるばかりにしてある。 モー クーバッカリニ シテアル。
動作の完了直後 <ばかり>

38. 今、仕事から帰ったばかりだ。イマ シゴドガラ ケーッタバッカシ
ダ。

基準 <まで>

39. 駅までもうちょっとだ。 エギマデ イマ チントダ。

L 等量の反復 <ずつ>

40. 一人ずつ呼んで話をした。シトリズツ ヨバツテ シャベツタ。

M 等量の配分 <ずつ>

41. 一人に二個ずつみかんをやる。 シトリサ フタツツズツ ミガン ク
イル。

(3) 限定・限界などをあらわすもの

N 限定 <しか・だけ・ばかり・きり>

42. 酒はたまにしか飲まない。 サゲワ タマニシカ ノマネ。

43. 今朝は寝坊をしてパンだけ食べてきた。 ケサハ ネポーシテ パン
ダゲ クッテキタ。

44. そんなに勉強ばかりしていると体に毒だよ。 ホンナニ ベンキョー
バッカシ シツテット カラダサ ドグダド。

45. うちの田が残っているきりで、よそは全部終わった。 ワイノターガ
ノゴッテルダゲデ ホガワ ゼンプオワツタ。(「ワイノター」を「オライノタ
ー」とも言う)

O 強調 <しか・こそ>

46. もうこれだけしかないよ。 モー コンケシカ ネーベ。

47. 今年こそいい年にしたい。 コドシゴソハ イイトシニ シテエ。(「シテエ」を「シッベ」とも言う)

P 限界 <だけ・まで>

48. これだけ言っても分からないのか!コンケ ユッテモ ワガンネノガ。

49. 二千元くらいまでなら何とかなる。 ニセンエン グレダラ ナントガナル。

(4) 陳述的なもの

Q 「～ば～だけ」 <だけ>

50. 肥料をやればやるだけよく育つ。 コヤシヤレバ ヤッタダゲ ヨグソダツ。

「假定形・ば・こそ」 <こそ>

51. 心配すればこそ言うんだ。 シンペーシッカラゴソ ユウンダ。

「こそ・假定形」 <こそ>

52. 彼は文句こそ言え、人の言うことなど聞かない。 アイツワ モンク バッカリユッテ シトノユーゴド キカネ。

53. 「～でこそあれ<コサレなども>」という言い方はありますか。 ない。

「未然形・ば・こそ」 <こそ>

54. 押しても引いても動かばこそ。 無回答。

「～こそ。」 <こそ>

55. 失礼なことを言わないでこそ。 無回答。

「～こそ～が」 <こそ>

56. 今でこそ家から出ないが、昔はよく出歩いた。 イマデゴソ イエーガラデネゲンチモ ムガシワ ヨグ デデアアルッタ。

「～ば～ほど」 <ほど>

57. 働けば働くほどもうかる。 ハダラゲバ ハダラグホド モーガル。

R 打ち消しとの呼応 <まで>

58. 村長に聞くまでもないことだ。 ソンチョーサ キグマデデモ ネーゴドダ。

否定との呼応(それさえもない) <も>

59. 朝から忙しくて昼飯も食えない。 アサガラ イソガシクテ ヒルメ

シモ カンニエ。(「カンニエ」を「クワンニエ」とも言う)

否定的取り上げ <など>

60. こんなものなどいくらでもあるよ。 コンナモンナンカ ナンボデモ
アッペ。

全面否定 <だって>

61. 誰だってそんなことを言われたら怒るよ。 ダンジャッテ ホンナゴ
ド ヤッチャラ オゴッペ。

S 次の動作が不可能 <きり>

62. 10年前に故郷を離れたきり、一度も帰っていない。 ジューネンメ
ーニ イエーガラ ハナレダッキリ イチドモ ケエッテネエ。(「故郷」とい
う言葉は使わない)

(5) モダリティー的なもの

T 不確かな気持ち <やら・か>

63. いつのまにやら眠ってしまった。 イツノマニガ ネムッチマッタ。

64. 何のことか分からない。 ナンノゴッタガ ワガンネエ。

推定 <か>

65. 後で遊びに行くかもしれない。 アドガラ アソビサ ングガモ シ
シャネ。(「シシャネ」を「シンニエ」とも言う)

どちらか分からない <やら>

66. 来るのやら来ないのやらよくわからない。 クンダガ コネダガ サ
ッパシ ワガンネ。

はっきり言わない <やら>

67. どこやらへ引っ越したそうだ。 ドゴサダガ ヒッコシタ ダシケ。

U 非難 <たら・てば>

68. お父さんたら今日も遅いのね。 トーチャンワ キョーモ オソイシ
タ。

69. お父さんてば、子供のようなことを言って。 トーチャンワ ワラシ
ミデナコド ユッテ。

Ⅲ. おわりに

以上、紙幅の関係で今回の報告は調査結果を示すだけにとどめた。今後さら
に項目を増やして調査し、後日にあらためて考察を加え報告する。

(こばやし はつお・福島県相馬市立飯豊小学校)